



“地域のことは地域で考えよう”

2017年9月25日

おきぎん県内景況・速報 2017年8月

一県内景況は、拡大している一

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回る。
百貨店売上高は前年同月を上回る。
家電卸出荷額、新車販売台数はともに前年同月を上回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。
ホテル稼働率は、ビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテル、リゾートホテルは下回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

■企業倒産

件数は前年同月を下回り、負債総額は上回る。

現場主義とお客様からの信頼

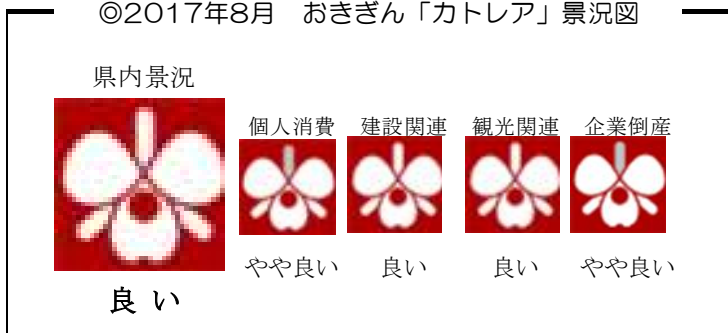
※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2017年8月分)

◎2017年8月 おきぎん「カトリア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

8月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回りました。百貨店売上高は雑貨や食料品が伸び、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、エアコン、洗濯機などが伸び、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。新車販売台数は小型乗用車、軽乗用車の需要増加により、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国ならびに沖縄県発注工事の増加などで前年同月を上回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を上回りました。

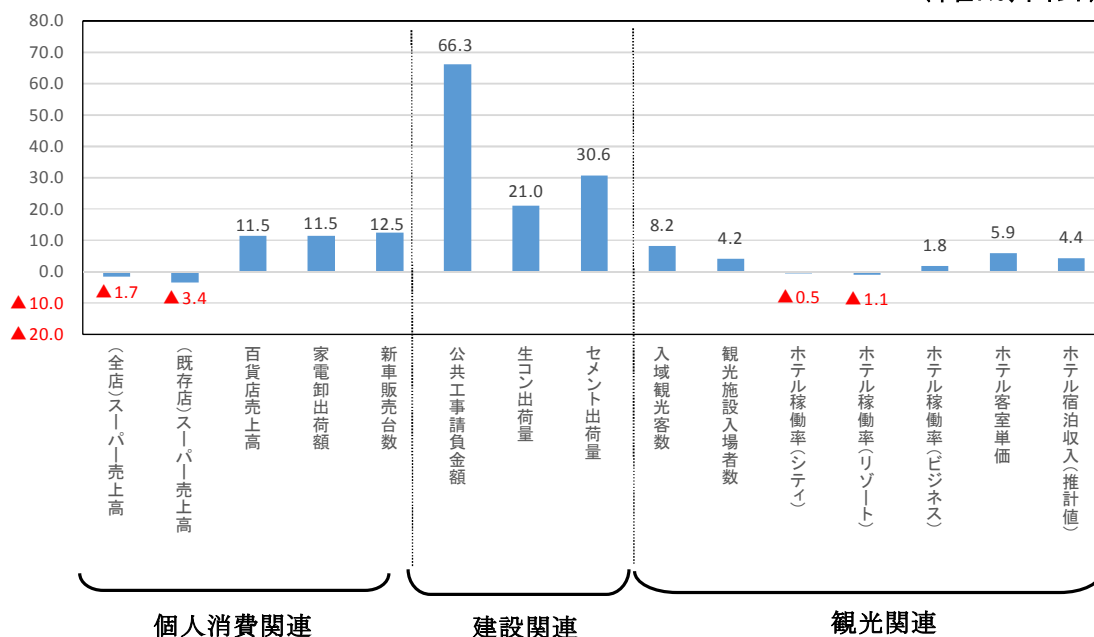
観光関連では、入域観光客数は59ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はビジネスホテルが前年同月を上回り、シティホテル、リゾートホテルは下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から43ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)

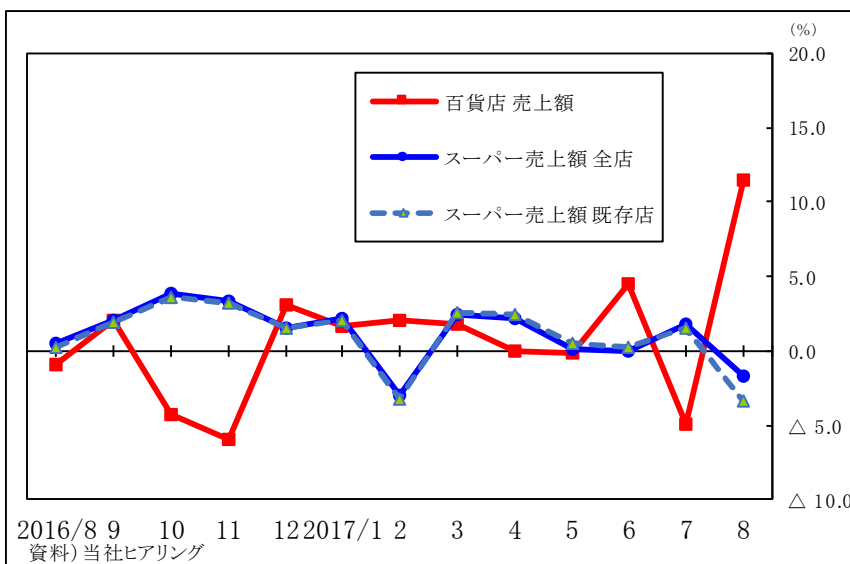




■個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2016/8	0.5	0.2	△ 0.9
9	2.1	1.9	2.0
10	3.8	3.6	△ 4.3
11	3.4	3.2	△ 5.9
12	1.6	1.5	3.1
2017/1	2.2	2.0	1.7
2	△ 3.0	△ 3.2	2.0
3	2.4	2.6	1.8
4	2.2	2.4	△ 0.02
5	0.1	0.5	△ 0.1
6	△ 0.03	0.2	4.5
7	1.8	1.5	△ 4.9
8	△ 1.7	△ 3.4	11.5

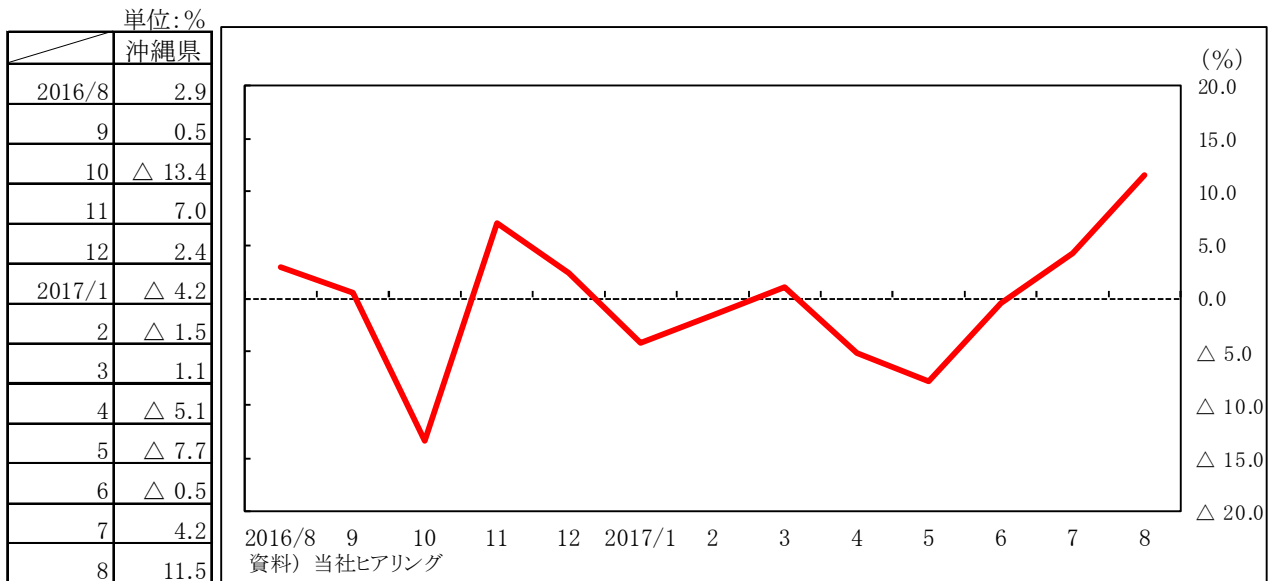


注) 前年同月比

8月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 1.7%減)」は、新規出店効果などにより、「家庭用品(同 6.6%増)」、「衣料品(同 3.1%増)」など売上が伸びたものの、「食料品(同 4.0%減)」は、旧盆の時期が昨年(8/15-8/17)は早かったのに比べ今年(9/3-9/5)は遅かったことから、前年同月を下回りました。「既存店ベース(同 3.4%減)」は、6ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。品目別では、家電を含む「家庭用品(同 4.0%増)」は、エアコンなどの季節商品の売上が堅調に伸び、前年同月を上回りました。また、「衣料品(同 1.5%増)」は、夏物の需要が伸び、前年同月を上回りました。一方、ウエイトの高い「食料品(同 5.5%減)」は、販促効果により精肉の売上が堅調に伸びたものの、旧盆の時期がずれたことにより、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、旧盆の時期がずれたことにより、お中元ギフトセールスの期間が延び、全体的に買い回り効果みられたことなどから、前年同月を上回りました(同 11.5%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同 0.2%増)」は、「婦人服(同 0.4%減)」で売上が伸び悩むも、「紳士服(同 11.8%増)」が秋物商材の売れ行きが好調だったことから、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 25.0%増)」は、売り場のリニューアル効果や、継続的なインバウンド需要により前年同月を上回りました。「食料品(同 18.1%増)」は、お中元ギフト需要などが伸び、前年同月を上回りました。

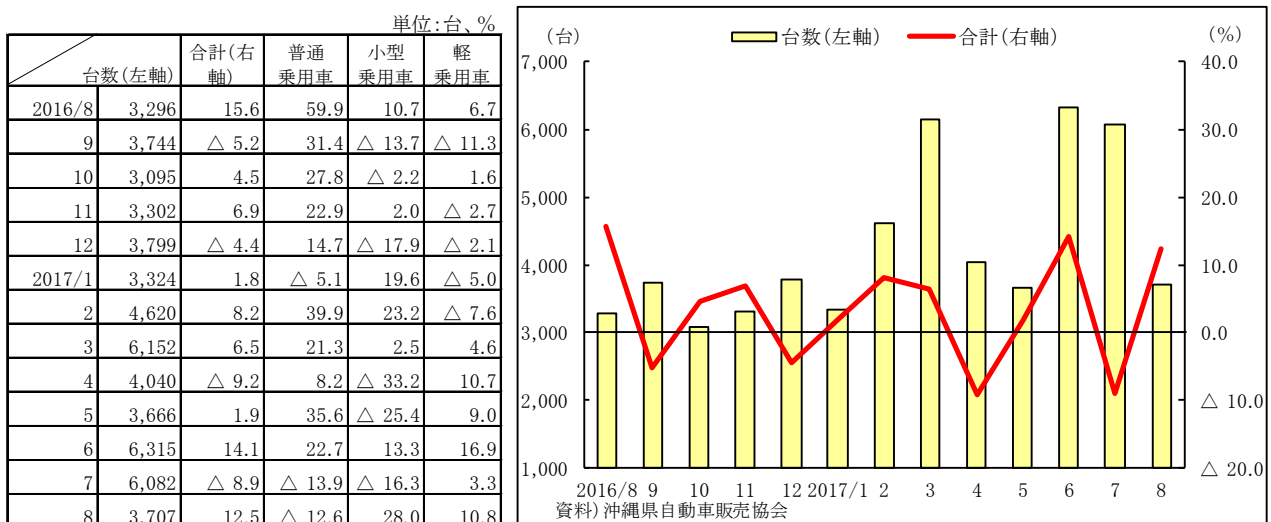
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月連続で前年同月を上回る



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、テレビ、冷蔵庫の需要減少などで前年同月を下回ったものの、エアコン、洗濯機の出荷額増などにより、全体としては2ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 11.5%増)。品目別では、「テレビ(同 10.1%減)」、「冷蔵庫(同 4.3%減)」は前年に新型商品効果により伸びた反動の影響などから、前年同月を下回りました。一方、「エアコン(同 49.2%増)」は、気温が高く推移したことなどから、前年同月を上回りました。「洗濯機(同 31.6%増)」は、販促強化などから売れ行きが伸び、前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

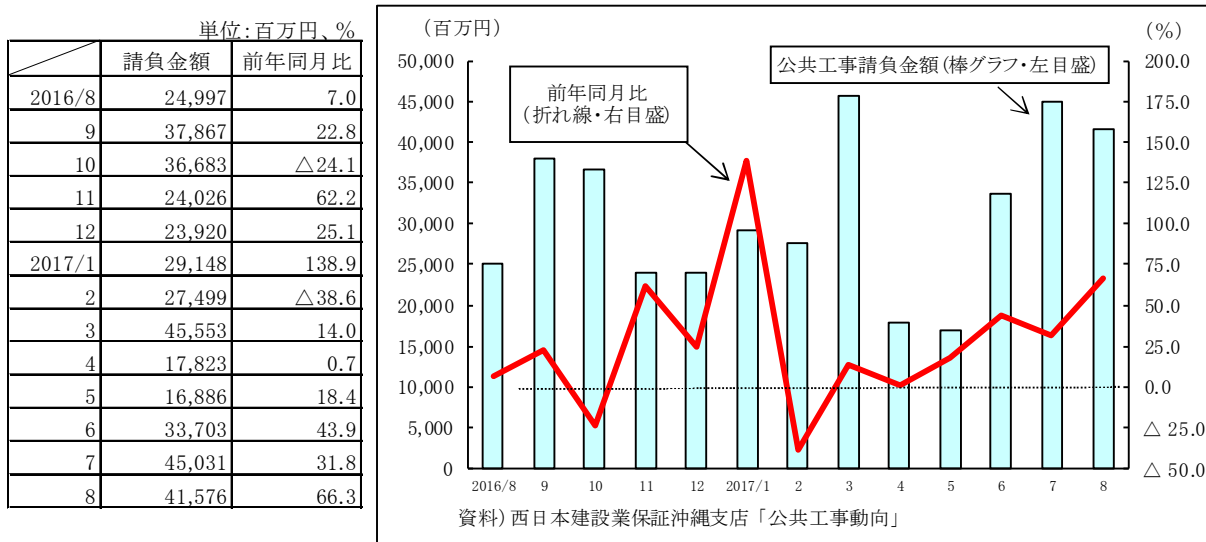
新車販売台数は、全体で3,707台(同 12.5%増)となり、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。車種別では、レンタカー需要が6月に前倒しになった影響などから、「普通乗用車(同 12.6%減)」は2ヵ月連続で前年同月を下回りました。一方、「小型乗用車(同 28.0%増)」、「軽乗用車(同 10.8%増)」は、レンタカー需要が伸びたことなどにより、前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



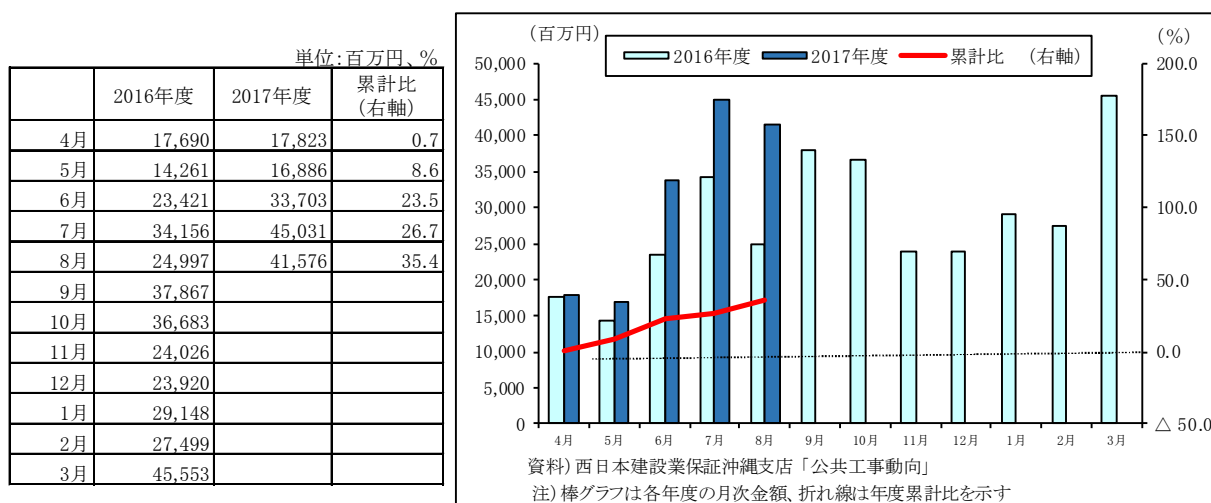
■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。



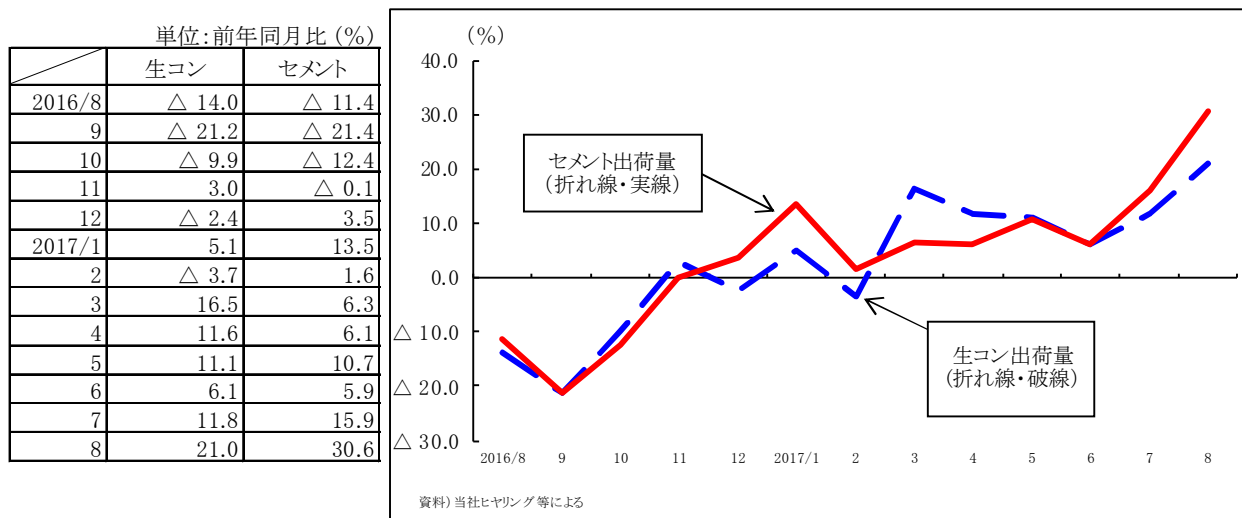
8月の公共工事請負金額は、前年同月比66.3%増の415億7,600万円となりました(6ヵ月連続増)。発注者別でみると、「国(同163.5%増)」は沖縄防衛局のシュワブ関連工事などの大型工事、「独立行政法人等(同119.8%増)」は前年の水準が低かった反動、「沖縄県(同56.0%増)」は航空機整備基地新築工事などの大型工事、「市町村(同10.2%増)」は恩納村でのダム工事などの大型工事などにより前年同月を上回りました。「その他の公共的団体(同5.1%減)」は下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。



今年度4月～8月までの累計を前年度同期と比較すると、35.4%増となっています。
(上記折れ線グラフ)

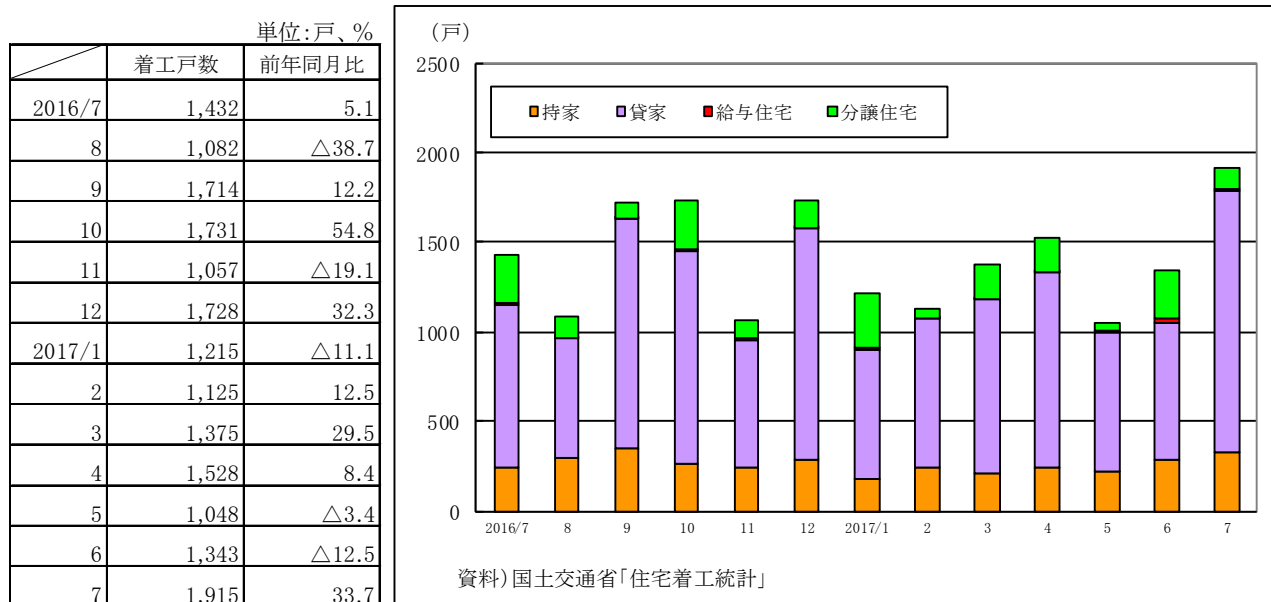
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は21.0%増と6ヵ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より26.4%上回り、民間工事向け出荷も18.2%上回りました。セメント出荷量は30.6%増と9ヵ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資(7月)・・・着工戸数は前年同月を上回る。

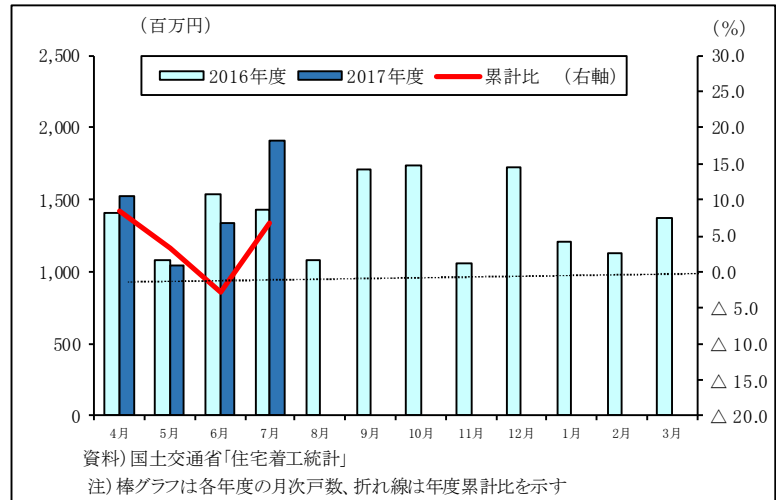


新設住宅着工戸数(7月)は、全体で前年同月比33.7%増の1,915戸と3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。利用別戸数を見ると、ウェイトの高い「貸家(同59.5%増)」や「持家(同35.4%増)」は前年同月を上回った一方で、「分譲住宅(同54.2%減)」は下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を上回る。

単位:百万円、%

	2016年度	2017年度	累計比 (右軸)
4月	1,409	1,528	8.4
5月	1,085	1,048	3.3
6月	1,535	1,343	△2.7
7月	1,432	1,915	6.8
8月	1,082		
9月	1,714		
10月	1,731		
11月	1,057		
12月	1,728		
1月	1,215		
2月	1,125		
3月	1,375		



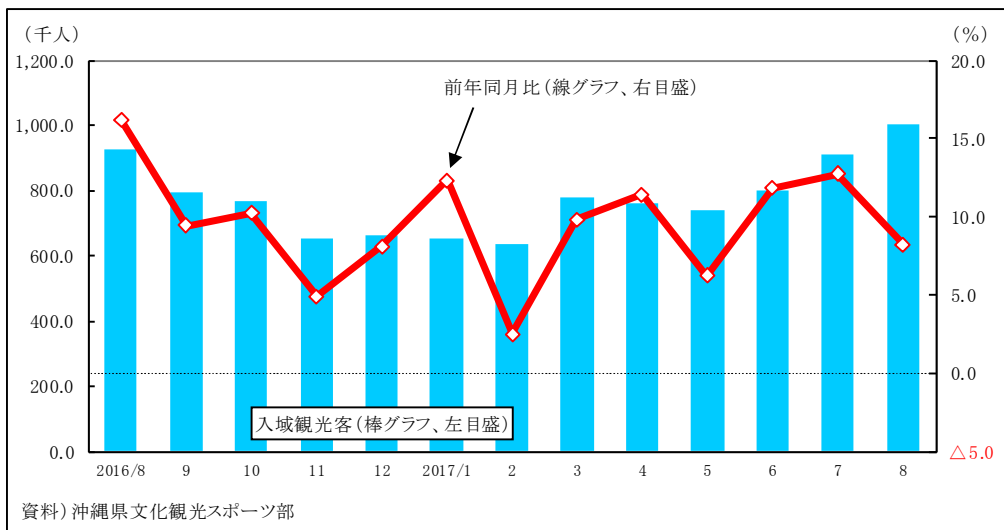
年度累計で見ると、6.8%増となっています。(上記折れ線グラフ)



■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・59ヵ月連続で前年同月を上回る。

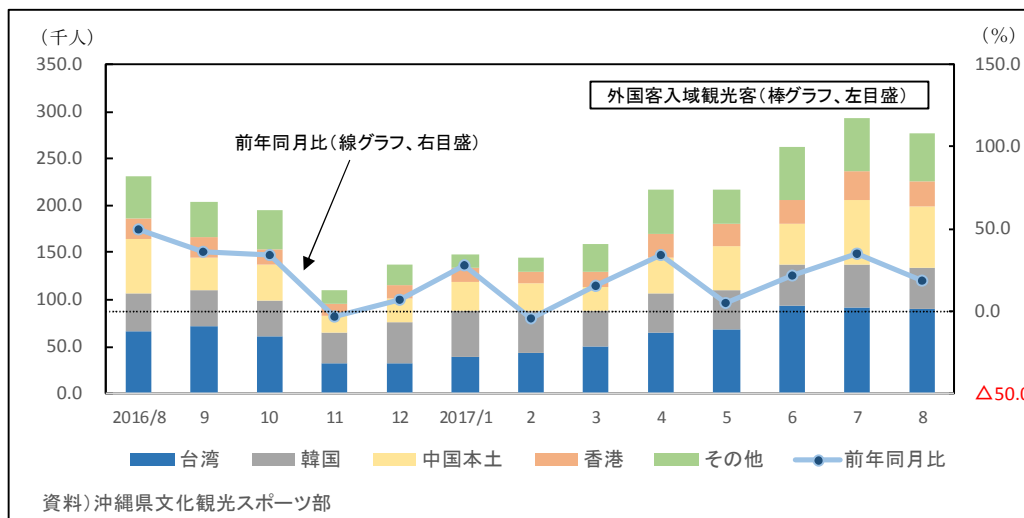
単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2016/8	926.9	16.2
9	793.0	9.4
10	767.9	10.2
11	650.2	4.9
12	663.0	8.1
2017/1	653.0	12.3
2	637.9	2.5
3	778.5	9.8
4	759.2	11.4
5	740.6	6.2
6	798.8	11.8
7	907.9	12.7
8	1,002.5	8.2



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・6ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2016/8	232.0	50.0
9	203.4	36.0
10	194.7	34.2
11	110.2	△ 2.8
12	137.2	6.9
2017/1	147.2	28.1
2	144.1	△ 3.9
3	158.4	14.9
4	217.6	34.2
5	216.8	5.0
6	261.5	21.1
7	292.7	34.7
8	275.7	18.8



※外国客は乗務員等を含む

8月の入域観光客数は、75,600人多い1,002,500人(前年同月比8.2%増)となり、59ヵ月連続で前年同月を上回りました(8月としては過去最高、単月で初の100万人台を記録)。

内訳をみると、「国内客(同4.6%増)」は726,800人と、お盆期間の増便や深夜便などを含む航空路線の拡充効果、航空会社による販売取組の強化(先行割引航空券の販売)等により需要が好調に推移したことなどから、17ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同18.8%増)」は、275,700人と6ヵ月連続で前年同月を上回りました。航空路線の拡充(香港-石垣路線の増便等)効果やクルーズ船の寄港回数増加等により、空路・海路ともに好調に推移したことから、前年同月を上回りました。

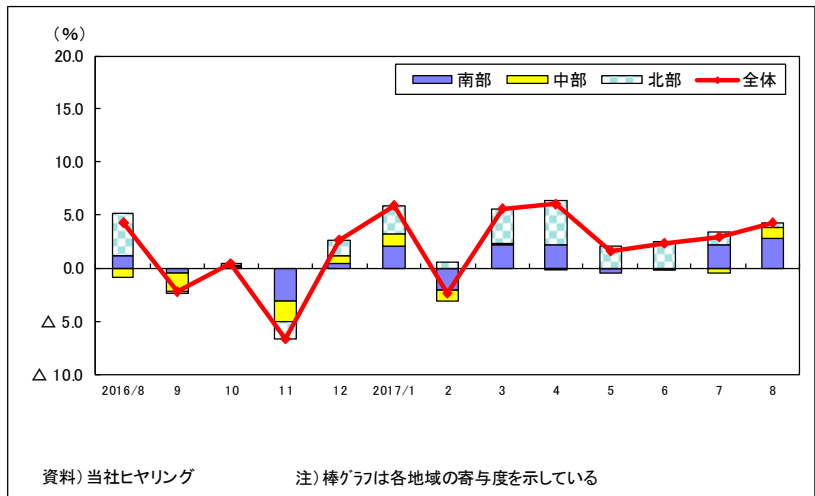
「台湾(同34.3%増)」「韓国(同8.2%増)」「中国本土(同15.6%増)」「香港(同19.6%増)」

※乗務員等を除く2017年8月実績=全体965,500人(同8.2%増)、外国客238,700人(同21.0%増)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数・・・6ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2016/8	4.3	3.5	△ 6.9	7.3
9	△ 2.3	△ 1.3	△ 15.0	△ 0.1
10	0.4	0.3	0.9	0.4
11	△ 6.7	△ 7.4	△ 14.2	△ 3.7
12	2.7	1.1	5.0	3.5
2017/1	5.9	5.4	8.9	5.5
2	△ 2.4	△ 5.6	△ 7.6	1.3
3	5.6	5.6	1.6	6.7
4	6.1	5.8	△ 1.8	8.5
5	1.5	△ 1.2	0.04	4.2
6	2.4	△ 0.1	△ 1.3	5.0
7	3.0	r 6.7	△ 3.9	2.2
8	4.2	8.0	9.7	0.8



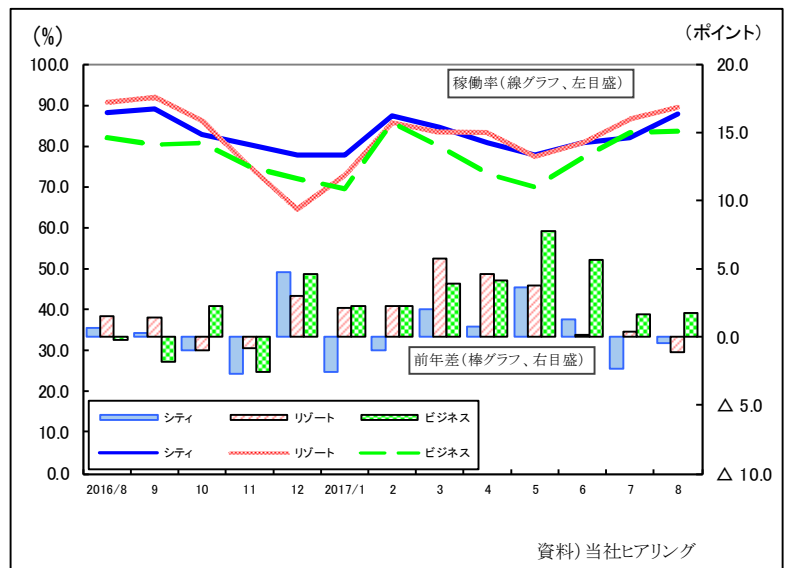
※調査対象施設数=南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 4.2%増加(6ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 8.0%増と2ヵ月連続、中部は同 9.7%増と3ヵ月ぶり、北部は同 0.8%増と9ヵ月連続で前年同月を上回りました。

③ホテル稼働率・・・ビジネスホテルは前年同月を上回り、シティホテル、リゾートホテルは下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2016/8	88.1	r 90.5	82.0	0.6	r 1.5	△ 0.2
9	89.2	92.1	80.4	0.3	1.4	△ 1.8
10	82.9	86.2	80.9	△ 1.0	△ 1.0	2.3
11	80.2	75.1	75.0	△ 2.7	△ 0.9	△ 2.6
12	77.6	64.4	72.0	4.8	3.0	4.6
2017/1	77.9	73.0	69.6	△ 2.6	2.1	2.3
2	87.3	85.6	85.7	△ 1.0	2.3	2.3
3	84.3	83.0	79.8	2.0	5.7	3.9
4	80.9	83.1	73.4	0.8	4.6	4.1
5	77.8	77.2	69.9	3.6	3.7	7.7
6	80.9	80.8	76.9	1.3	0.1	5.6
7	82.0	86.6	83.0	△ 2.4	0.4	1.7
8	87.6	89.4	83.8	△ 0.5	△ 1.1	1.8



注)シティ9ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

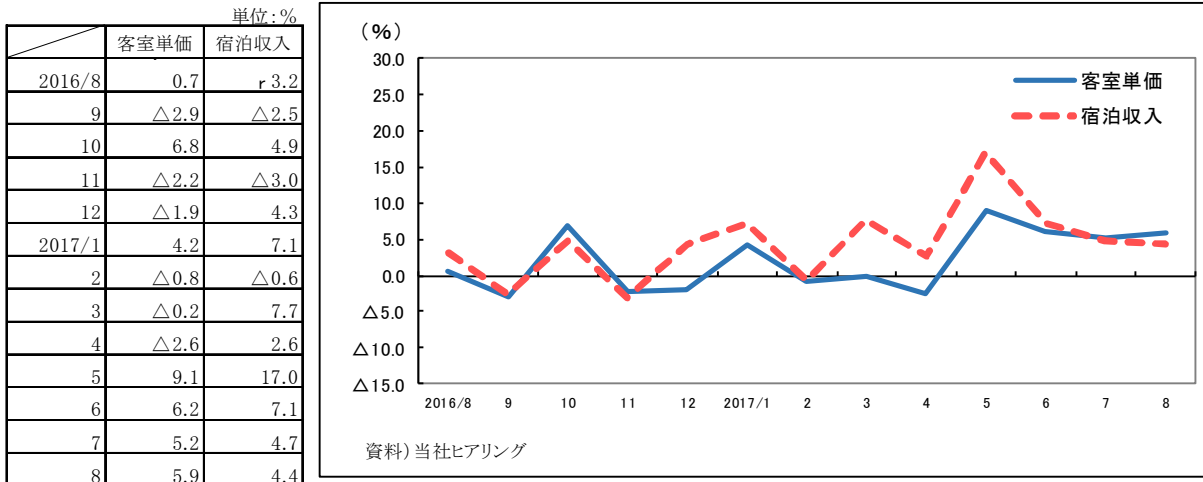
注)2015年10月より、シティホテル対象施設数が変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

注)2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 87.6%と 0.5ポイント減少(2ヵ月連続)、リゾートホテルが 89.4%と 1.1ポイント減少(9ヵ月ぶり)、ビジネスホテルが 83.8%と 1.8ポイント上昇(9ヵ月連続)しました。

④ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。



※対象施設数: 27施設(シティ9、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は27施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2015年10月より、シティホテル対象施設数に変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

※2016年4月より、リゾートホテル対象施設数に変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

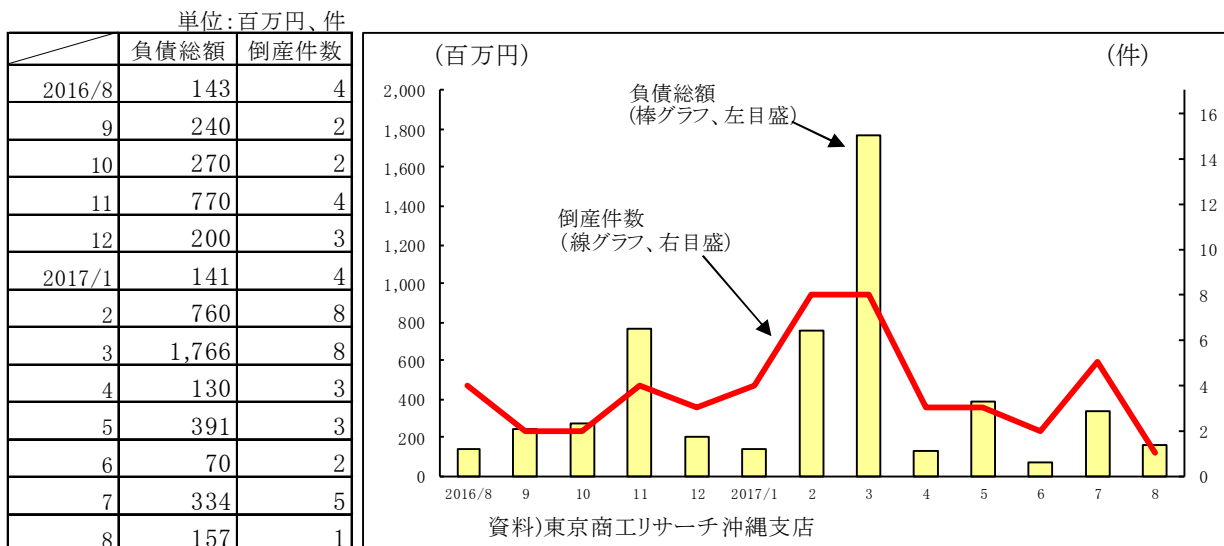
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 5.9%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**も同4.4%増と前年同月を上回りました。



■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数は前年同月を下回り、負債総額は上回る。

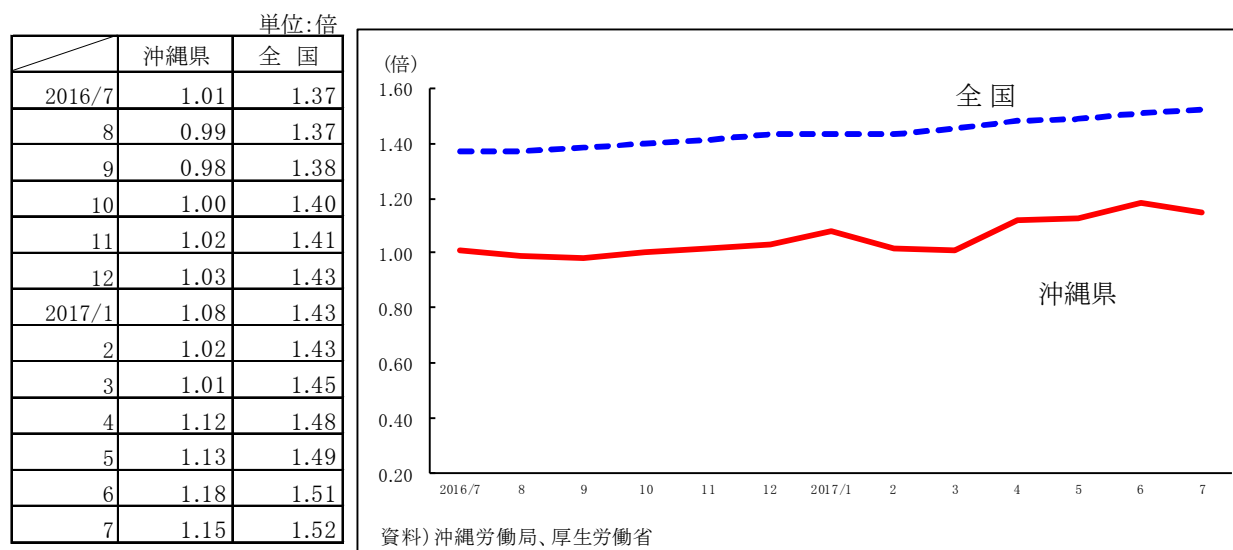


8月の企業倒産件数は、1件(うち大型倒産は無し、大口倒産は1件)となり、同75.0%減と前年同月を下回りました。負債総額は1億5,700万円となり、同9.8%増と上回りました。



【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(7月)・・・沖縄は前月より低下、全国は上昇。



注)季節調整済

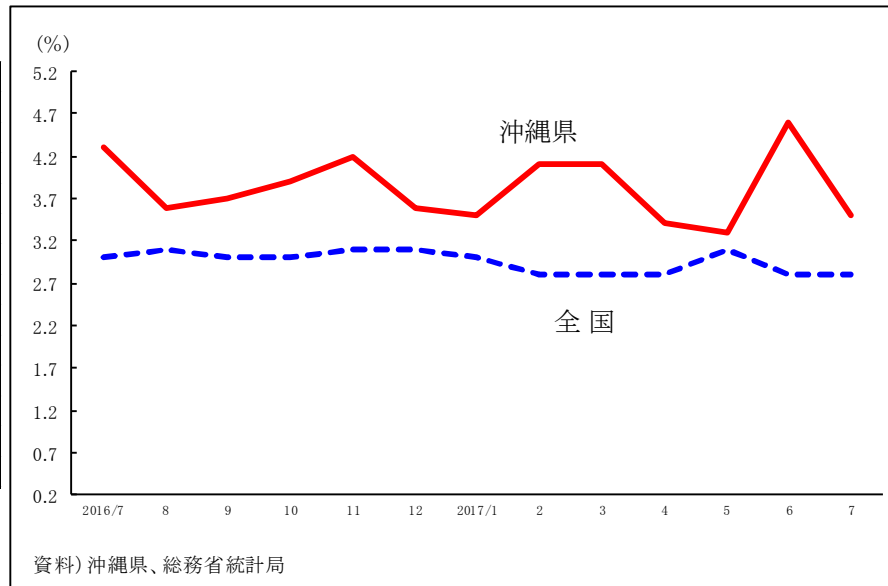
注)季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

7月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比2.5%減の28,626人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.2%増の24,968人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.15倍となり前月より0.03ポイント低下しました。

完全失業率（7月）・・・沖縄は前月より低下、全国は同水準。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2016/7	4.3	3.0
8	3.6	3.1
9	3.7	3.0
10	3.9	3.0
11	4.2	3.1
12	3.6	3.1
2017/1	3.5	3.0
2	4.1	2.8
3	4.1	2.8
4	3.4	2.8
5	3.3	3.1
6	4.6	2.8
7	3.5	2.8

注) 季節調整済



7月の完全失業率(季節調整値)は、3.5%となり前月より1.1ポイント低下しています。